

2010年 .AGUDAA & PHILIPPINES DENTAL HEALTH MISSION 活動報告

AGUDAA 団長 亀山 正道 34名

8月11日(水) 先発、加藤隊長以下12名フィリピン航空にてマニラに出発。ケソン市へ定刻に到着。ケソン組は、12、13日サンビセンテ小学校でデンタルフェスティバル(口腔衛生啓発活動)を行う。UEからはサンデー先生率いる34名のUE歯学部生が支援して協働で活動。



8月12日(木) 本隊13名出国、定刻着トレーダスホテル泊。モールへ買い物に走る人達もいた。一部器械整備準備、打合わせに走る。夕食は「海舟」にて活魚料理始め日本食のメニューは品揃い。日本食ブームかお客さんは多い。酒がフィリピンを忘れさせる。ここはどこだ。



8月13日(金) 午前には市長に表敬訪問、午後、後発隊が到着、市内見物ショッピングに自由時間。帰りはジブニーを貸しきって帰ってきた。Dr.ニールが荷物をホテルに持ってきた。又、先発隊も合流。明日の打合わせのためのミーティング、夕食は「田辺」で懇親を深め英気を養った。



8月14日(土) 8時30分ホテル発、現地体育館まで数十分。市のパトカーが先導してくれていた。すぐに器械整備、仕事の準備、患者の流れの検討、電源の確保など当初設定から始めUEからサンデー、ナンシーがロータリアンの子弟12名を連れてくれ、コミュニケーションのアシスト、患者の問診など協力してくれた。この日の患者は、170名ほどであった。地元のボランティア、PCOMS、マニラ歯科医師会先生の協力も今回初めての試みである。一緒に行くと聞いていたので彼らも診療を行うものと思っていたが、手助けをしてくれるような状況となった。治療希望者の望みは高かった。自分に合わない治療にはNOとはっきり主張する。説得は難しい。治療痕も見られることから治療の機会を持っている患者が多い。聞くところによると今年何度もチャリティーでの治療を受けているとのことであった。したがって、患者が殺到するような雰囲気ではない。治療を受け慣れているのが感じ取れる。時間の合間を見て衛生士さん達が地元のDr.と魚釣りを折りこみ、口腔啓発のクイズを披露して好評で人だかりとなっていた。



8月15日(日) 早めに8時ホテル出発、8時半にスタートできるよう体制を整えた。ぼつ



ぼつ患者は やってきて治療が始まった。この患者さんたちは別の地区から来た人たちであると伝えられていた。UEからはDHTのメンバーが14名ほど応援に来てくれ、又PCOMS、マニラ歯科医師会の先生らの顔もちらほら来訪してくれた。彼らが言うには、このシステム(診療の流れ)は大変良い方法だといってくれていた。数に追われることなく、余裕で後輩の指導に当たることができたことは、一つの収穫でもあったようだ。又、器械器具が十分でない条件で一生懸命カバーしてくれて患者にも優しく診療してくれたことも評価できると思う。前回は空腹のため一過性ショックになったが、今回、一人薬物乱用者がいて転倒して頭を強打したが病院行くこともなく回復したと報告を受けた。救急機器、薬品の整備も必然となってきた。終了時には約400名の患者であった。まだ、比国では光と影の部分がはっきりしている。治療の恩恵に与ることができる人は少ないであろう。組織的な改善、啓発、健康教育が必然であることが痛感される。



8月16日(月) 全員無事帰国の途に着く。1週間後のニュースは、マニラで観光客が乗った観光バスに拳銃をもった男がのっとり7名が犠牲者となった。他人事ではない。何も問題が無かったことに感謝をし、今後も起こさないように危機管理をする気構え、心構えが必要であることを痛感した。